

4章 これまでの活動

アンジー・ゼルターは、プラウシェアズ活動を初めて耳にして以来、長い間、核廃絶プラウシェアズ活動に参加したいと思っていた。ゼルターは「ホーク戦闘機の非武器化活動を経験したあと、刑務所に収監中にプラウシェアズ活動に取り組むことに決めた。(それには3年かかった!!)」だが、ホーク戦闘機非武器化活動とその後の空白から、私はもっと多くの人達が参加できるような組織とキャンペーンを立ち上げたいと思うようになっていた。本当に成果をあげるには、多数の人が長期間にわたってプラウシェアズ活動に参加し最後まで遂行するートライデント・プラウシェアズの進化が必要であると、気がついたのだ。それから、私は机に向かい数週間かけて概要を書き、それを数人に見てもらい、了解を得た後に、公開書簡として1997年8月に送付した。」と書いている。

1998年4月に、平和運動家ジョージナ・スミス(Georgina Smith)が所有する、クールポートの核弾頭施設から5000ヤード(約4.5キロ)程の所にあるペイトンの森(Peaton Wood)で週末の計画打ち合わせが行われ、アフィニティ・グループの代表が参加し、キャンペーンの実際行動面での最初の活動となる8月の2週間の軍縮キャンプについて打合せた。私たちはイベントに必要な現実的取り決めや活動に求められる精神について話し合い、誓約者やその他キャンプの参加者に対して、最小限の約束事(コア・バリュー)を示している誓約を守るよう求めることを再確認した。この約束事(コア・バリュー)は、さまざまな考え方やキャンペーンの歴史を背景に持つ



人々を結束させるために必要なものである。政府当局による厳しい対応の可能性、つまり、核の違反行



落ちない横断幕 - ロンドンでキャンペーン開始. 98年5月

為を防止するための誓約書に署名しただけで共同謀議罪(最高10年の禁固刑を受ける)に問われる可能性が出てくることについても話し合った。この心配は現在、根拠がないものであることが分かっているが、そのような重大な結果となる可能性があるにもかかわらず誓約を取り消したメンバーが出なかったのは非常に意味のあることである。

実践的な取り決めと平行して、キャンペーンでは英国政府を話し合いに参加させる努力が始まった。3月に、コア・グループが英国首相トニー・ブレアに書簡を送付して、非武器化行動を1998年8月11日までは行わないことと、キャンペーンに対する政府の意向と対応について話し合いの用意があることを伝えた。政府からの回答は、トライデントの保有は政府の政策公約であり、政府はトライデントが国際司法裁判所の勧告的意見に基づき正当であると確信している、というものだった。8月のキャンプの直前、トライデント・プラウシェアズは、英国首相に「最後の要請」を出し、核廃絶直接活動を始める前に再度会談を求めた。今回の返事には活動家と面会できない理由が新たに付け加えられていた。違法行為のおそれのある活動家と面会することは不適切であるというのがその理由であった。

1998年5月2日、広島、アントワープ(Gent)、ゴテンバーグ(Gothenburg)、ロンドン、エジンバラで同時に、キャンペーンが公式に開始された。ベルギーに本拠を置くアフィニティ・グループ「タイタニック・トライデント(Titanic Trident)」のPol D'Huyvetterが力強く宣言した。「状況を憂慮する市民として、私たちが核廃絶行動を始めるよりほ



ジョー・バトラーとエド・スタントンが三叉のほこ(トライデント)を打ち延ばし、形を作る。1998年8月のファスレーンでの開始セレモニー

かに道はありません。」エジンバラでは、誓約書に署名した62人全員の名前が書かれた美しい旗が掲げられた。

そして、8月になり、激しい雨が降り続く中、世界中から活動家が出てきた。12カ国からおおよそ200人が参加し、ブリュッセルのNATO本部から「母なる地球のために(For Mother Earth)」の1000キロ平和行進が到着して多くの国際的広がりが見られた。2週間の直接行動がファスレーンの北側のゲートで正式に始まり、蹄鉄工がトライデント原潜の模型をハンマーで叩いて反核運動(CND)の平和の象徴にした。2日間の行動で逮捕者が出始めた。8月13日の明け方近くに、「ウッドウォーズ(Woodwooses)アフィニティ・グループ」の5人のメンバーがファスレーンでフェンスを切断しようとして連行された。次に、あるグループはクールポートを封鎖し

の夜に「オルダーマストーン女性トライデント廃棄(Aldermaston Women Trash Trident)」のメンバーがクールポートに侵入し、次の日「聖体の祝日(Corpus Christi)」の3人の若いスウェーデン人牧師が侵入した。8月15日土曜日に、ファスレーンで「スコットランドCND」が主催した大規模集会が開かれ約300人が参加した。8月16日月曜日には、クールポートで封鎖とフェンス切断が行われ、ファスレーンでも侵入行為が行われた。キャンプでの呼び物は、8月18日早朝に、「タイタニック・トライデント」のカトリー・シルヴォネン(Katri Silvonen)、クリスタ・ヴァン・ヴェルゼン(Krista van Velzen)とリック・スプリングー(Rick Springer)が行った大々的な遊泳だった。ウェットスーツを着た3人はゲール湖(Gareloch)の向こう側から水中に入り逮捕された時には停泊中のトライデント原潜から僅か

10メートルのところまで近づいていた。3人は原潜を廃絶するために金槌と接着剤を持参しており、彼らを捕らえた警備員は水から上がった3人の見事な行動に称賛を与えた。だが予想どおり国防省当局はメンバーが原潜に近づいたことを否定した。8月24日にカトリーとクリスタは再度泳いで原潜に近づいた。8月20日には逮捕者が100人に達した。地方裁判所には大勢の人が出廷し、キャンプの終わりには7人の活動家が拘留されていた。グリーンock刑務所にはジェンス・ライト(Jens Light)とイアン・トーマス(Ian Thomson)、スターリング(Sirling)のコートンベール刑務所にはヘレン・ジョン、クリスタ・ヴェルゼ



雨のクールポート -- メインゲートの封鎖。1998年

ン、ハンナ・ジャーヴィネン(Hanna Jarvinen)、アンジー・ゼルターとカトリー・シルヴォネンが収監されていた。キャンプはかなりの成功を納め、協力から生まれるエネルギーは人々の糧となった。「バンブルビー (Bumblebee : マルハナバチ) アフィニティ・グループ」が第一週に用意した精進料理は大歓迎されたし、参加者のほぼ全員が情報は分かりやすく役に立ったと感じていた。良くなかった面としては化学処理式トイレが不評で、実行グループはもっと十分な注意が必要だった。キャンプが続行されるにつれて法的支援は改善され、私たちは将来の方向性を確立した。すなわちキャンプ及び直接行動期間中の 24 時間法的支援の提供、拘留施設との積極的なコミュニケーションである。英国内では、私たちの功績に対するマスコミの報道は不十分だったが、海外ではそれよりずっとましだった。コーブ(Cove)にある私たちの『隠れ家』の報道局は活動に関する記事をオランダ語、フランス語、フラマン語、スウェーデン語、フィンランド語、デンマーク語で発信し、エール(アイルランド共和国)、米国、オーストラリア、そして日本にも送った。キャンペーンが世界中に広まったことを想像し、国際的なエネルギーがこの問題と解決に注がれていることを実感し、大きな感動を受けた。



コーパス・クリスティー・アフィニティ・グループ。
1998年8月



出発準備完了の「タイタニック・トライデント」

キャンプ直後、私たちはダンバートン(Dumbarton)の地方検察庁に市民の不服申し立てをし、トライデントに関して英国政府を国際法違反で告訴するように求めた。検察側が私たちの不服申し立てをこれ以上取り上げる価値なしと判断したのは、特に驚く程のことではない。だが、私たちがあらゆる既存の方法に訴えるつもりであるということを示すあかしとして、裁判でその点に触れることは有益なものとなった。

9月19日、英国の4番目のトライデント原子力潜水艦がバロー(Barrow)の停泊所から出航した。コートンベールに拘留されている4人の女性はささやかな抗議を行って、この問題を印象づけることに決めた。4人は、シャツに新聞から切り取った文字を歯磨き粉で貼りつけて垂れ幕を作り、刑務所の監房の窓から垂れ下げる準備をした。女性達はその日監房に留まり会話や食事を取らないつもりだった。刑務所当局に声明を用意して自分達の行動を説明し、抗議はトライデントに対するもので当刑務所に対するものでないことを明らかにしようとしたが、刑務所側は計画を嗅ぎつけて金曜日に監房に踏み込んできた。女性全員が裸にされて調べられ処罰を受けたが、アンジーは特にひどい扱いを受けた。アンジーが懲罰室に連行されたとき、看守がアンジー

の親指と手首をひねり上げたので、アンジーは激しい痛みを襲われた。裸で一日中懲罰室に放置された。不当な扱いを地方の警察に訴えたが、事実上、もみ消されて努力のいかも無く無駄だった。スコットランド刑務所苦情委員会はアンジーの訴えを深刻に受け止め、そのような状況下で受刑者の衣服を取り上げるべきではなく、看守は無抵抗な抗議に対する扱い方の訓練を受けるべきだと勧告した。さらに、スコットランド刑務所にアンジーに謝罪するように勧告したが、陳謝はなかった。行政監察官はアンジーの苦情は詳しく調査するに足るものであるとし、2000年10月には苦情に裁定を下す予定である。地元のスーリング支援グループは受刑者を接見して強い衝撃を受け、刑務所の中で何が行われているかに大いに興味を持つことになった。

9月末の別々の日に行われた裁判で4人の女性は説諭を受けた。ジェンスとアンジャ・ライト(Anja Light)も同様に説諭を受けた。国際法に基づいた強力な抗弁が展開され、カトリー、クリスタ、ハンナの裁判は、ケンブリッジ大学のグレン・ラングワラ(Glen Rangwala)による専門家証言によって支援された。治安判事は明らかに心を動かされたが、女性達は有罪のままであり、判事は国際法に関する議論は無視しなければならないと語った。ヘレン・ジョンには180ポンド(約32220円)の罰金を課した。いくつかの例外を除き、これがアーガイル(Argyle)とビュート(Bute)の地方裁判所がそれ以来私たちの裁判に対してとってきた態度である。こうした地方治安判事裁判所の姿勢は次のように要約できよう:「あなた方は立派な方々で、当裁判所はあなた方が重い罰則を受けないように最善を尽くしている。あなた方は国際法に基づいて論争をしているが、我々はこの法に関して多くのことは分からないし、我々の担当外であることは確かだ。これらの問題は上級裁判所が判断することだ。だが、それでも当裁判所は審理を行い判決を出す。当裁判所はスコットランド法を適用し、それによれば被告人は有罪であり処罰を受けなければならない。」

ルパート・エリス(Rupert Eris)とピーター・レイヨン(Peter Lanyon)は12日木曜日に、クールポート基地の爆発物取り扱い棧橋近くに侵入して、11月のキャンプを好調にスタートさせた。重い装備用のカバンにペンチ、ボルトカッター、強力な接着剤、液状のセメント、敷物とのこぎりの刃を入れて運ぶことは簡単な試みではなかった。天気は私たちに味方して、快晴の好天気だった。さらに活動は

続き金曜日に5人の女性がファスレーンで逮捕され、土曜日には「ガレロホヘッド・ホーティカルチャリスト(Garelochhead Horticulturalists:ガレロホヘッドの園芸家達)」がグラスゴーの国防省の正面玄関を封鎖した。日曜日にはファスレーンで、スコットランド教会指導者のマックスウェル・クレイグ(Maxwell Craig)が礼拝を行い、トライデントは邪悪の範疇に入るとはっきり述べ、さらに逮捕者がでた。月曜日には、新たに車で乗り入れる直接活動が見られた。アンジーはファスレーンの正門で好機をとらえて、ピーター・レイヨンの車を運転して車の列に加わり基地へ侵入した。警備員はこれを見てあわてふためいて、無謀運転を理由に、暴力的行為による脅迫未遂の罪をでっちあげた。クリスタ、アンナ、カトリーとハンナも車に同乗し、車のトランクの中のコンピューターのことが心配になった。1999年8月にこの件に関する訴訟が審理された時、ダンバートン州裁判所の判事は活動を一笑に付し、次のように言った。「有名な王室顧問弁護団が、ある刑事事件のことを話したことがあった。『地平線に向かって粗末な小舟が出帆したが、やがて見えなくなり、二度と見る事がなかった。』この訴訟をみているとそのことが思い出される。」

英国のマスコミの報道はその時までには少しは好意的になり、ラジオのチャンネル4で午後、3分間の特集番組を放送した。一方で、ベルギーに本拠を置く活動家についてのドキュメンタリー番組が放映され、11月キャンプを取材したフィンランドテレビ製作班がハンナとカトリーが参加した経緯を優れた30分番組にした

1998年12月、各アフィニティ・グループの代表がトウィード川ほとりのベリック(Berwick-on-Tweed)にある平和の教会(Peace Church)に集まっ



クールポートからの帰路急死したジョン・レインを記念してピートン・ウッドに植樹をする。1998年11月

た。振り返ってみると私達は有益な 5 ヶ月間の活動を行ったが、振り返ってみると私たちは有益な 5 ヶ月間の活動を行ったが、懸念もあった。一部のメンバーは、私たちが最初の計画から横道にそれてしまったのではないかと今まで以上にトライデントを非武器化するためにはもっと重要な活動に関与することが真のブラウシェアズ・キャンペーンなのではないかと感じていたのである。停泊している原潜に向かい「タイタニック・トライデント」が 8 月に 2 度遊泳したことだけが、比較的ローレベルな活動が多かったなかで、唯一、活動のバランスを保つものであった。ここで言うローレベルな活動とは、象徴的活動のことだが、多くの活動家がさまざまな個人的理由を抱えながらも何とかやっているそうした象徴的活動を、もっと低く評価しなければならない理由があるのだろうか。彼らは「真剣」ではないのだろうか。結局、全ての活動に平等の評価を与えるということ、いろいろな人が出来る限り参加できる機会を用意するためには、「最大級の非武器化」と私たちが呼んでいる活動とその他の広範囲の活動の両方が必要だということで私たちは合意した。振り返ってみると、この話し合いはキャンペーンの性格を明らかにするために重要だった。私たちは少数の反核活動エリートが、自身で直接行動が始められない大規模な支持グループに支援されるようなキャンペーンにしたくなかった。全てが、後に「市民による核廃絶」と呼ばれるようになる考えに支えられたキャンペーンにしたかった。「市民による核廃絶」とは、トライデントの非武器化という、国がやろうとしない緊急の仕事一般市民が行うことである。

ベリックで明らかになったもう一つの懸念は同様には解決されていない。序列を排し、重要事項は全誓約者の同意によって決定されることを目指した運動組織として、私たちは多くのアフィニティ・グループが会合に直接代表者を出席させていないという事実直面しなければならなかった。全グループによる提案書が協議に加えらるることになっているが、私たちはそこで決める結論が、あまりに少数のメンバーによって決定されていると感じていた。すでにこの年の 4 月、スウェーデンの誓約者達、特に「ブレッド・ノット・ボムズ (Bread Not Bombs : 兵器でなくパンを)」がこれに関して疑問を投げかけていた。同グループの考えはコンセンサスに至る方法を十分に徹底させ、グループと個人の拒否権も含むべきだ、というものだった。その姿勢は極右派分子による平和・環境保護団体が欧州に潜入したという

長い経験と、徹底したコンセンサスを行わないと少数のメンバーに大きな権限が集中するという信念に基づいている。一部のスウェーデングループが提起した疑問に原則的には賛同しその判断を評価しながらも、キャンペーンとしては、現実的な理由から完璧なコンセンサスの取り方は受け入れないことに決めた。メンバーが広範囲に渡るため全ての決定事項に関して完全な意見の一致をみることは非現実的だった。組織の基本として、年 2 回の誓約者の会合と非武器化キャンプで開かれる会合で、キャンペーンに関する基本的決定、すなわち一年のスケジュール、直接行動の取り組み方、法律上の戦略、キャンプの運営上の基本方針等に関する決定を行う。コア・グループはそれが本当に行われているかどうかを確かめるため、その枠組の中で活動する。全誓約者に対する調査における賛成数は、メンバーはこの取り組み方には満足しているものの、代表者会議への出席者が少数であることには依然として不安があることを示している。

1999 年初めの 6 週間は「象徴的」活動と、「最大限の核廃絶」と、益々多数の人が参加するようになるパターンの萌芽が見られ、活動の健全な多様性が示された。1 月、マーガレット・ブレムナー (Margaret Bremner) は、1998 年 8 月にファスレーンの封鎖に加わったことと監房の壁に幾つかの核廃絶の落書きをした容疑でヘレンズバラの地方裁判所に出廷した。マーガレットは保健衛生の専門家として、公共医療サービスは核戦争で生じる結果にうまく対処できない、と治安判事に述べた。1 月の末に、カトリー・シルヴォネンは同裁判所で、全世界が英国の核兵器の脅威にさらされるなかで、これが国際問題になっている状況を証言した。人道法との関連性に触れる陳述は一切耳を貸さない裁判所への苛立ちがあった。アンジー・ゼルターもまた 8 月のキャンプで告訴され出廷して、「判事が私を正義に基づいて扱えないのなら、退廷したほうがましだ」と判事に訴えた。アンジーは退廷して捕らえられ、法廷侮辱罪で刑務所に拘束された。傍聴席の支持者達は判事が退廷する時起立を拒んで、結局判事はまだ着席中の支持者のなかを退廷するはめになった。この種の苛立ちは法廷での矛盾や多方面での無能振りが多くなると、時として膨れ上がる兆しが見えてきた。そして、2 月 1 日月曜日の朝、私達はバロー・イン・ファーネスに停泊中の新トライデント原潜ベンジャンスを叩いて大きなへこみを与えた者がいるというニュースを耳にした。

午前 5 時 30 分、「オールダーマストーン・トラッ



バローで準備するロージー・ジェームズとレイチェル・ウェナム

シュ・トライデント・アフィニティ・グループ」のロージー・ジェームズ(Rosie James)とレイチェル・ウェナム(Rachel Wenham)が泳いで原潜に乗り込んだ。2人は原潜にペンキで「違法」、「死の原潜」と書き、展望塔に「女性は平和を望む」と書かれた垂れ幕を下げ、逮捕されるまでに研究施設の試験装置にダメージを与えることに成功した。他の3人の誓約者、イッピー(Ippy)、ヘレン・ハリス、ルイス・ワイルダーはバロー警察署に濡れたウェットスーツを着たままの2人に衣類を届けにいったり逮捕された。5人の女性全員が25000ポンド(約445万円)の損害を与えたとして告訴された。

「予定地点に着いたとき私達は『そう、私達は今実際にやっている!』という思いに打たれた」とレイチェルは言った。「余りにも簡単に原潜に近づくことができ、内部に入り込めたことに私達はびっくりしてしまった。その夜の活動は大胆さと幸運に恵まれて成功した。信じれば実現できるのだ。一番滑稽だったのは原潜の周りにいた監視員の反応で、余りの驚きにまさに開いた口が塞がらない状態だった。ウェットスーツを着てハンマーを持ったずぶ濡れの2人の女性を瞬きもせずに見つめていた監視員に『こんにちは』と話しかけたなんて信じられないほどだった。あの極悪非道な建造物と共に水中にいたことは絶対に忘れないだろう。」

ロージーは、「この活動について他の誓約者に伝えたいメッセージは、その簡単さだ。原潜ベンジャンスが水中からの侵入にいかにか脆いかが分かったとなると、一番難しいのはウェットスーツを着ることだ。そのことを甘くみてはいけない!組織化された活動が行われていない時、彼らがいかにうすのろであるかを心

に留めておこう。そうすれば、あとは、やり方を認識し、用具を買い、ウェットスーツを借り、水に飛び込むだけだ。」と語った。

1年が過ぎて、ロージーとレイチェル(2人は保釈されている)が初めての裁判にかけられた。現在これを執筆している時にも、2人は司法システムの中で苦勞している。確信はできないが、時間が経つにつれて、2人の非武器化行動が原潜ベンジャンスを数週間も足止めしたように益々思われてくる。

私たちはクライド基地での次の計画として、キャンプではなく2月15日にファスレーンを終日封鎖することを決めた。グラスゴーのフレンズ・ミーティング・ハウスに一泊し、早朝にバスで基地に向かった。政治的支援が高まってきた兆しとして、スコットランド愛国党の前党首ビリー・ウォルフが(48人と共に)封鎖に加わって逮捕された。一方、当時まだ労働党の下院議員だったデニス・カナヴァン(Denis Canavan)とスコットランド社会党のトミー・シェリンダン(Tommy Sheridan)は封鎖を支援するために「イオナ・コミュニティ(Iona Community)」のリーダー、ノーマン・シャンクス(Norman Shanks)と行動を共にした。マーティン(Martin)がノリッジ(Norwich)のミニバスを基地内に乗り入れると、「ウッドウォーズ(Woodwose)」と車と戸外警備ゲートの交錯は再度強力なものとなった。車の中にいた犬のマックスも尋問のために拘束されたが足型をとるいつもの手順をふんだ後釈放された。ヘレンズバラのジェーンとジムの家の居間にいた法的支援チームとメディアサポートチームにとって、それはわくわくする朝だった。私たちはあちこちの警察署にい



ファスレーンで休息するシーズ・ザ・デイ・シンガーズのテオとシャノン。1999年2月15日



トライデント・プラウシェアズで混雑するヘレンズバラ地裁の受付ルーム

多くの活動家をモニターするための詳細な計画を練っていた。報道機関が政治家の存在に関心を持ち、記事にするために熱心に近づいてきた。少なくとも一人のジャーナリストは事の始まりから英国の核抑止力についての真実を詳細に説明してもらわなければならなかった。それだけの価値はあった。というのは、後に、そのジャーナリストはキャンペーン活動を報じる公平で堅実な記者となったからである。

2日後、トライデント・プラウシェアズはオルダーマストンの核兵器施設で再び活動を始めた。トリガー・マックレガー(Tigger McGregor)とサム・ギール(Sam Geall)は、外部との境界を示すフェンスに登り、有刺鉄線から垂れ幕を吊るし支柱を飾り付けて国防省の警官につかまった。拘束されて何日も経った3月4日、そのキャンペーンでの初めての禁固刑の判決が言い渡された。シルビア・ボイズ(Sylvia Boyes)は3件の容疑で訴えられてヘレンズバラ地方裁判所に出庭した。2件は軍内規に基づいて、1件は外部との境界を示すフェンスを切断したためだ。軍内規に関する1件は証拠不十分のため却下された。治安判事のマッグイグハン(McGuighan)はあとの二つの訴因についてシルビアに有罪の判決を下し、50ポンド(約8950円)の罰金を支払うよう申し渡した。シルビアは支払うつもりはないと卒直に申し述べ、それぞれの訴因で7日間同時並行的に拘置された。3月はあっという間に過ぎて、同法廷で「コーバス・クリスティ」のフレデリック・イバソン(Fredrik Ivarsson)が核兵器は神への冒瀆であると述べ、ジョー・マークハム(Jo Markham)とアンジー・ゼルターは重い罰金を課された。アンジーは仲間の「ウッドウォーズ」のクライブ・ファッジ(Clive Fudge)と共に同月後半再び出庭した。容疑は2月の封鎖での秩序違反だったが、両者は説論を受けただけだった。アーガイルとビュートの地方裁判所の治安判事と検察当局間の長期にわたる矛盾に

関しては種々の見解が提出されていた。検察側の気まぐれ振りはまるで起訴状を裏階段に投げて処理しているかのようなのである。階段の7段目より下にそれを落としたり賛成ということだ。判事の気まぐれは、多分、判事自身の理解不足や、特異な影響力を発揮する一部の活動家の力量ということで説明がつかさう。月末に、「アダムナン」メンバーのバーバラ・サンダーランド(Barbara Sunderland)も封鎖に対して軽い警告を受けた。ちょうどその頃、「ノーサンブリア(Northumbrian)アフィニティ・グループ」はニューカースル(Newcastle)近くのアルベマール核兵器運搬施設(Albemarle Secure Nuclear Vehicle Compound)のフェンスを切断していた。この施設はバークフィールド(Burghfield)からクールポート(Coulport)に核弾頭を運ぶ核輸送車が定期的に使用していた。グループは30分かけてフェンスを切断し、燃料置場のコンクリートにスローガンをペンキで書いた。あたりに人影がなかったので、チラシと「TP2000 参上」のスローガンを残して説明責任を果たした。

こうした活動の間にも、新しい誓約者が誓約書に署名して新しいアフィニティ・グループが結成された。その一つはヘレンズバラを中心に、スコットランドの他の地域の人も含めた「ローカル・ヒーローズ(Local Heroes: 地元の英雄たち)」だ。4月22日、颯爽と行動を開始した。「ローカル・ヒーローズ」のエル(EI)は書いている。「朝の交替の少し前に、一部のメンバーが雑談のためファスレーンの北ゲートに向かった。エリックとデビッドが基地の入り口をケーブルで封鎖するのを婦人警官が唾然として見ていた。その直後、手が震えている私をブライアンが手助けしてくれ、私は身体をケーブルに括り付けることができた。私たちは少しの間互いに見つめ合った。入れなくなった車の列はどんどん長くなり私たち



「ローカル・ヒーローズ」行動を開始するブライアンとエル。1999年4月



ファスレーンに来たイングランド議会議員ネイル・マコーミック。1999年5月16日

はついにやったのだということを実感した。気持ちが高揚していた。大部分のメンバーにとって初めてのロックオン「固定化」であり、ある者にとっては、初めての非暴力直接行動とその後の逮捕だった。しばらくして、警官が細いケーブルを切るために大きなボルトカッターを持ってきたが、役に立たなかった。顔を紅潮させてその警官は立ち去り 10 分後に切断機を持って戻ってきてやっと切断することができた。一人ずつ私たちは外されて連れていかれた。ブライアンは冷静にどしりと座りこんでいた。私はその象徴的な姿を見て、このような力強い、創造的なグループの一員であることに誇りと身の引き締まるような思いを感じた。」

英国政府を意味のある対話に参加させる試みも同様に継続されていた。英国の新しいトライデント原潜ベンジャンスがファスレーン基地に向け出港するのに際し、ある国防省幹部はトライデントの合法性という問題に関して次のように説明した。国防省のサイモン・ギレスピー(Simon Gillespie)は、トライデントの実際の使用が検討されるようになった時のみ法律上の勧告に従うと語った。このことは SOFAL(Send Out For A Lawyer—弁護士を呼べ)という対応として知られている。原潜ベンジャンスがクールポートに到着したとき、原潜はブラウシェアズ活動家によって温かく意義ある歓迎を受けた。ファンガス(Fungus)とタムソン(Tamson)の両者が泳いで原潜のすぐ側に近づいた。この裸の抗議(タムソンのはいていたキルトが脱げてしまった)は翌日の新聞で大々的に報道された。この活動は、核弾頭を搭載した原潜に対する多くの活動と同様に、トライデント・ブラウシェアズとスコットランド反核運動(CND)とファスレーンピースキャンプという 3 者間の強固

な協力関係と相互支援を示している。そしてこうした行動の場合、二つ以上のグループに属している個人メンバーは、重要な共通の目的を実行しているということで、どちらのグループの活動を行っているかについてはあまり気にしていない。トライデント・ブラウシェアズにとって、特に調査やネットワークについてスコットランド反核運動から受ける強い支援と、ファスレーンピースキャンプの活力と自発性が、スコットランドで活動するための重要な要素となっている。

5 月の中頃、私達は大勢の仲間と共にペートンの森に戻ってきた。月初めのテレテキストによる調査では 85%のスコットランド人がスコットランド内の核兵器に反対すると回答していた。5 月 16 日、ファスレーンの正門で、ニール・マコーミック(Neil McCormick)教授を含むスコットランド愛国主義の主だった活動家が同じような強力なメッセージを伝えた。同日に、16 人が逮捕され合計で 200 人を上回った。一つの目立った活動は、車椅子のモラグ・バルフォー(Morag Balfour)とロズ・ブレン(Roz Bullen)がエジンバラの「ケイリー・クリチャー (Ceilidh Cratur : 物語と歌と踊りの夕べに集う者)」の誓約者と共に行ったものだ。彼らは様々な方法でフェンスやお互い同士を固定し、腕と脚を



ファスレーンでの「ディ・フェンシング」(フェンス破り)。1999年5月



「スター・ウォーズ」の扮装のマーク・リーチ。
1999年5月16日

複雑に縫うように絡ませていた。車椅子レースで大きな事故が起こったような光景だった。警官がやって来たが全てを元の状態にするのに長くかかった。皆上機嫌だった。変化に富んだ週末だった。太陽が輝き、マーティン(Martyn)はトニー・ブレアが竹馬に乗ったような格好をして大股で歩き回った。「ケイリー・クリーチャー」のメンバーたちは奇抜な衣装を着て、すべてが活気づいていた。スコットランドのテレビ放送局は学校放送として4チャンネルで、スコットランドの国家としての再生に関する番組としてこの模様を放映した。

その月の終わりに、NATO軍がセルビアを空爆したとき、「ローカル・ヒーロー」のブライアン・クエイル(Brain Quail)は世界各国からの500人の非暴力活動家(トライデント・プラウシェアズのメンバーを多く含む)と共にNATOの違法な核兵器使用に抗議して、ハーグからブリュセルまで徒歩で行進した。彼はそのときの模様を次のように記している。「テレビで何度も目にした多くの不気味なスターリン主義の役者たち、すなわち、高圧放水銃の行列、覆面をした警察機動隊、楯と警棒を目の当たりにして疑い様なかった。間違いなく私たちはNATO本部に着いたのだ。長い行進は終わり、足にまめができ、出血して、疲れ切って私は地面にへたり込んだ。すぐさま高圧放水銃で激しく放水され道路の反対側に吹っ飛ばされた。心臓バイパス手術を受けた61才にとって今までにない経験だった。その後、機動隊が有刺鉄線に近づいたメンバーの腕や手首を棒で激しく打つのが見えた。私達が犯罪者? ただここに

いるだけなのに。NATOの核戦争計画という違法性に立ち向かっているだけなのに。平和的に、隠しでなく、そして非暴力で。」

表面には現れていなかったが、長い間何かが醸成されていた。計画をたて、構想を練った数ヶ月の後、アフィニティ・グループ「フェザント・ユニオン(Pheasants' Union: キジ同盟)」のウラ・ローダー、エレン・モクスレーとアンジー・ゼルターは垂れ幕にスローガンを書いて、バッグに工具類をつめ、小型トラックにゴムボートを積んで「メイタイム」の本拠地、ゴイル湖に出発した。「メイタイム」は国防省の研究機関DERAが運営している水中に浮かぶ研究施設で、トライデント原潜が音波によって探知されずに航行するための研究をしている。3人は乗船し研究室に入り込み、スローガンを書いた垂れ幕を窓から垂らし、コンピューター、電気機器、研究資料をゴイル湖の水中深く投げ込んで研究室を空っぽにした。警察が注意や関心を示している徴候は見られなかった。3人はもう一つの施設でも同様の行動をする予定だったが、ボートが水漏れしたので、夕日が没する中、座り込んでピクニックと洒落込んだ。走り回る小さな人影を眺めたり、金属がガンと鳴る鋭い音を聞いたり、装置が沈む度に上がる大きな水しぶきやたくさんの紙片が優雅に漂っているのを浜辺で見ると、胸がわくわくするような経験だった。エレンはこの研究施設で非武器化を行いつつ、トライデント、「自由」市場、子ども搾取、抑制のきかない軍国主義、社会に蔓延する暴力、発展途上国の債務などを取り払っているように感じ、驚くほどの解放感を体験した。午後9時に行われた私たちの報道発表によって、保安警備員が初めて「ゴイル湖上で」問題が起きている事実気づいたことはまず間違いない。日が暮れて、メイタイムの主任の憂鬱そうな言葉が水上に響き渡った。「私の施設に何をしたのか?」3人の女性は間違いを犯したことを認めなかった。コートンベール刑務所に拘留された。報道機関はスコットランドのビッグ・イシュー誌の名誉ある例外を除いて、この素晴らしい活動をほとんど取り上げなかった。その理由として、訴訟継続中原則(訳注:裁判所で審理中の事件の報道と議会の発言を制限する)を破って厄介な問題になることを心配したためと述べている。だが、これは本当の理由ではない。訴訟継続中原則に関してかなり厳しい態度を取っているスコットランドにおいてさえ、報道機関はいつも鋭く突っ込み、出来るかぎり詳しく最新記事を伝えているのだから。私がこの活動に関して書いているその週に、スコット

ランド BBC 放送はフットボールのマネージャ、ジム・マックリーン(Jim McLean)が取材記者に今にも飛び掛ろうとしているシーンを何回も映し出した。地方検察官がこの問題を審理しているのを十分に知っていたのである。

6月30日、昨年11月にファスレーン基地で核廃絶行動に参加して有罪判決を受けたブライアン・クエイルの抗告を審理する予定だったエジンバラ高等法院は、その抗告をより広い根拠に基づいて再提出することを許可した。ブライアンはアーガイルとビュートの地方裁判所で、基地のフェンスを「正当な理由もなしに」犯意を持って損壊した罪で有罪の判決を受けていた。ブライアンの抗弁は、国際法に基づいたトライデントの違法性が彼の行動の正当な根拠となるというものだった。控訴審では、治安判事が判決に至るまでに国際法を考慮に入れなかったことの是非が論議されるだろう。これを書いている時点では、ブライアンの抗告はまだ審理されていない。ブライアンより前にヘレン・ジョンが同様の論拠に立って行った抗告は高等法院が却下した。同件は弁護士の弁論が説得力を欠いており、特にトライデント特有の問題やトライデントが脅威にあたるという事実が焦点が当てられていなかった。判事は、ヘレンのトライデントの違法性に対する確信は抗弁



メイタイム行動の準備をするキジ同盟



ブリュッセルに到着した平和行進. 1999年5月

として不十分である、と見解を述べた。ブライアンの件以外にも、スコットランドの下級裁判所における2件の有罪判決に対して抗告の申し立てが行われている。

キャンペーンに関して、クールポートとファスレーンだけでなく、英国内の他のトライデント関連施設にも関心を向けたらどうかという意見がこれまでも時々あった。「メイタイムへの侵入」は良い例となり7月に、「ミッドランド・グループ」がオルダーマストン基地に対する活動を行った。ロジャー・フランクリン、シルビア・ボイズ、アリソン・クレネ(Alison Crane)とマーリーン・ヨー(Marlene Yeo)の、後に「魔術の4人組」と呼ばれるようになる4人は困惑がみだが4人はオルダーマストンの「厳重警備」の核兵器施設に侵入し、逮捕されるまでにスローガンを書いた旗を掲げることができた。基地内で作業員にニュルンベルグ原則に関して問いかけるつもりだった。4人は当時、この活動をどちらかというところ失敗だったと見ていたが、他のメンバーの励みになったことや訴訟手続きに関して得た成果などから、大きな意義があったことが分かった。7月13日、イアン・トムソン(タムソン)(Tamson)は7月の活動に関係した罪状でヘレンズバラ地方裁判所に出廷した後、拘置所から釈放された。イアンは7月1日のスコットランド議会の開催を祝して、ロング湖畔にあるクールポート核兵器施設のフェンスを破損することを企てたのだった。彼はまた、5月にベンジャンス原潜に泳いで近づいた件でも訴えられていた。両件で有罪の判決を受けて、グリーンノッ



メイタイムに向かうウラ、エレン、アンジー。1999年6月8日

ク刑務所で12日間拘留されたあと、釈放された。

7月と8月の始めは、8月のキャンペーンの準備とコアントンベールに拘留されている「フェザント」のメンバーを支援するために費やされた。この拘留が世界中に知れわたり、支援に大きな効果を及ぼしたが、同時にまた否定的な側面もあった。アンジーは始めから本人弁護に決めていた。一方、エレンは法廷弁護士ジョン・マクローリン(John McLaughlin)と事務弁護士ステファン・フォクス(Stephen Fox)に依頼した。ウラはブライアン・クエイルの訴訟を取り扱った法廷弁護士ジョン・メイヤー(John Mayer)と事務弁護士マシュー・バーロー(Matthew Berlow)に依頼した。弁護士とアンジー間、また弁護士間のコミュニケーションは刑務所の管理システムの問題に直面して、公判直前まで難問だらけだった。1999年8月のキャンプの設備は、本線からの電力供給とコンポストトイレの設置により大きく改善された。第一週目は、「バンプルビー」が再び料理を作り将来この仕事を引き継ぐトライデント・プラウシェアズのメンバーのための訓練という特別のおまけまでつけてくれた。それは実際「バンプルビー」の見事な最後の作品であり、彼らは私たちに貴重な調理器具を譲り渡してくれた。多数の新メンバーが加わり、はっきりと国際的な特色を表していた。活動家達は活動をどんどん進めたいと思い、ジョイ・ミッシュェル(Joy Mitchell)とジョーン・メレディス(Joan Meredith)が初日にクールポートの正門を封鎖して方向を決定づけた。実際、逮捕者が一人も出ない日は15日間のうち一日もなかった。マーカス・アームストロング(Marcus Armstrong)、ルイス・ジェイズ(Louise James)、クライブ・ファッジ(Clive Fudge)、クリスティ・ギャザーグッド(Kirsty

Gathergood)、ジョージ・スノック(Josje Snoek)らが、いろいろな形で参加した遊泳などのように華々しい活動もあった。新しいタイプの行動としては「ウッドウォーズ」らが、コープ

(Cove)の原潜試験施設の外壁に「トライデントは違法」などのトライデントに相応しいメッセージを書いて美しく飾ったというのがある。クールポートのフェンスが水没している場所で「命に関わるポート漕ぎ行動」を行う女性達もいた。彼女達は湖岸に沿ってポートを漕ぎ基地内に旗を持ち込んだ。国防省の警官の一人は「警官をからかうのは許さない」と言っていたらしい

が、彼女達の逮捕容疑は、実祭、警官をからかったことではなく、秩序違反だった。活動は疾風と共にやってくる通り雨のようにキャンプ最終日の夜まで続いた。マリアン・ウイラムセン(Marjan Willemsen)が詳しく語っている。「月曜日はキャンプの最終日で、そこに留まっていたメンバーはクールポートのゲートで集会を行うために出掛けた。楽しい音楽、歌やダンスが始まり、そして突然、全員がおとり役になるためにばらばらに走りだした。大部分が戻ってきたとき、何かが聞こえ、2人の女性が基地内にいた!そのあと、別の物音が聞こえ、ジェニー(Jenny)がフェンスのてっぺんに登ってレーザーワイヤーのロールの中にいた!ジェニーは数時間もそこにいた。一方、デイビットとエマはフェンスを切断して逮捕された。馬鹿にするしぐさをしたティ



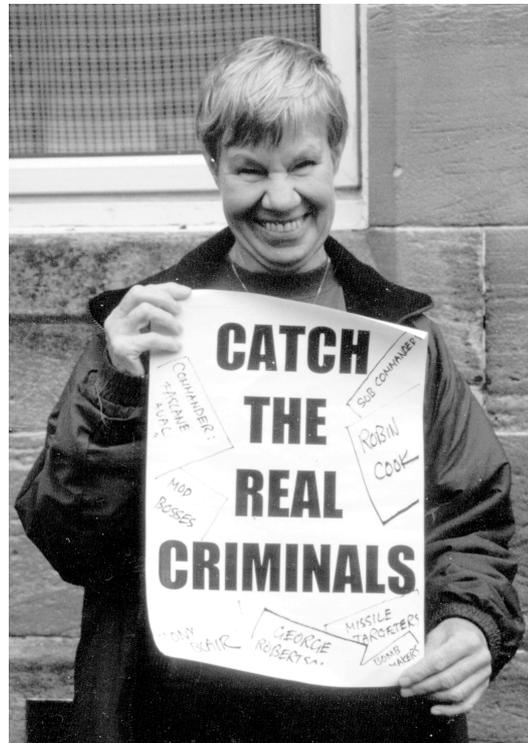
ピートン・ウッドのグレース・ニコルとバーナード・ド・ウィット。1999年8月

ポット(Teapot)、ゲートの下を這って基地内に入ろうとしたファンガス、護送車を妨害したアン、そして警官がアンをどのように扱うか見ていた私も逮捕された」警官がこれで全ては片づいたと考えたら、それは間違っている。4日後、シルビア・ボイズとアン・ショルツ (Anne Scholz) がファスレーンの境界のフェンスの周りを泳ぎ、2時間後にボラリス原潜が以前停泊していた棧橋の下で泳いでいたとき取り押さえられた。アンは語った。「私の計画はトライデント原潜に乗り込んで籠城することだ。シルビアは原潜の外壁に使うためにハンマーを、内部のコンピューター・モニターに使うためにスプレー・ペンキを用意していた。もしも一寸した幸運があったなら、ロージーとレイチェルがパローでしたように私たちも乗艦出来ただろう」8月のイベントに関するメディアの報道は不十分だったが、アイリッシュ・タイムズが私たちの活動を取り上げ、インターネット上では、ヤフー新聞のその日のトップ記事となった日もあった。

9月の初め、ヘレン・ジョンはエジンバラのハイ・ストリートにある人目をひく公共建築物にペンキでスローガンを書き、英国の核犯罪、違法な劣化ウラン弾の使用、イラクに対する経済制裁措置の支援について人々の注意を喚起した。2週間後、ヘレンはウエストミンスター宮殿の下院へ通じるスティーブン・ゲートにも30cmほどの幅のスローガンを書いた。エジンバラの検察官側はまだ彼女を起訴するだけの十分な体制がとれていなかった。1999年12月、ヘレンのウエストミンスター事件に関する公判で、アラン・シンプソン (Alan Simpson) 議員とトニー・ベン (Tony Benn) 議員の証言を聞いたロンドン陪審は、犯罪的意図があったとする損壊罪でヘレンを有罪としたものの、「被告の行動には合理的な理由があった」とする副申書を添付した。このような副申書が出されるのはおそらく異例のことであろう。

筋の通った綿密な抗弁を刑務所内で準備することは困難だったが、私たちは「フェザンツ (Pheasants: キジ)」のグリーノック公判にある程度の希望をもって臨んだ。ジェイン・タレンツ (Jane Tallents) は以前行われた審問でマーガレット・ギムブレット判事の裁判を傍聴し、判事が若い法律違反者に対して断固とした態度で、しかし、真の洞察力と共感をもって対応する姿を見たことがあった。ジェインは、ギムブレット判事は必ずや、私たちにすっかりおなじみとなっている裁判所の「心を閉ざす症候群」を直

してくれるだろう、と確信してその法廷をあとにした。グリーノックでサポート体制を確立することにはいろいろな困難が伴った。私たちが連絡をとった教会や他の組織で、事務所または宿泊所として場所を提供してくれるというところが一つもなかった。結局、私たちは事務所用の部屋を家賃を払って借り、グラスゴーから毎日通った。グラスゴーではフレン



エジンバラの高裁への注目を呼びかけるヘレン・ジョン

ズ・ミーティング・ハウスの歓待を受けることができた。グラスゴーからグリーノックまでの道程は、被告人が通わなければならなかった距離に比べれば短く、便もよかった。被告人たちはまずグラスゴーの警察署まで行き、それから別の護送車に乗せられてグリーノックまで来た。したがって、朝の出発は早く、コートンベールへ戻るのは夜遅く、しかも休憩や飲食の時間も僅かか、全くないかのどちらかだった。刑務所は、裁判所から夜遅く帰った被告人たちに冷たい食べ物を出しただけだった。被告人たちが1ヶ月にもわたることになる公判の間を何とか持ちこたえられるだけのまずまずの栄養補給を受けたのは、グリーノック裁判所の職員たちの現実的な対応によるものだった。